

# ビワズ通信



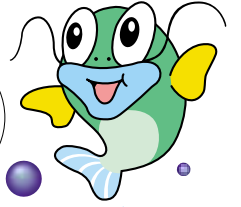
000 Autumn

ビワズくんの妹「アクア」ちゃん【ビワズ通信】は、琵琶湖・淀川の上流から下流の水のかけはし情報誌です。

季刊

No. 27

秋号



アクア琵琶のマスコト  
+ ビワズくん

<http://www.biwa.ne.jp/~aquabiwa/>

## きれいな水って、どんな水。

生命をかくむ水。

さまざまな生き物にとって大切な水。

水生生物と水との関係を探るBiyoセンター

金魚は、どうして水道の水で生きられないの？

### 【湖の自然を象徴するビワコオオナマス】

ビワコオオナマスは、琵琶湖に棲む魚類の中で最も大きく、大型のものでは全長1メートル以上、体重が20キロを超えるものもいます。

しかし、340万年前の地層からも頭骨の化石が出土し、琵琶湖の主ともいわれるこの魚にも、いま自然環境の変化が大きな影を落としています。産卵場となる湖岸の岩場や砂利底などの減少。さらに、ブルーギルやブラックバスによって

エサのボテやモロコなどの在来魚の数が激減したことも、その生態にとって、深刻な問題といえるでしょう。



朝日漁協滋賀県東浅井郡の松岡正富さんは、ビワコオオナマスの近況を次のように伝えてくれました。

昔からビワコオオナマスがフナ刺し網に掛かり混獲されることはよくありました。かつては産卵期になると、湖岸近くの網を引き揚げると、5、6匹は掛かっていました。が、いまでは1匹程度です。から大分減っているのです。

年1回の産卵は、梅雨明け直前の1週間足らずの間に一斉に行われます。1カ所の産卵場で何十組も

のペアが卵を産むわけですから、産卵場がひとつ減るごとに、かなりの影響があると考えられます。

ビワコオオナマスは、産卵期以外は湖岸に近づくとなく、冬場は湖の深みにいます。ところが、真冬の1月に刺し網に掛かったことがありました。どうしてこんな時期にと不思議に思っていました。その翌日に阪神淡路大震災が起きたのです。

父親も漁師だったので、琵琶湖の魚に大きくしてもらったという想いが強いと話す松岡さんは、4年前からビワコオオナマスの稚魚を孵化させて、琵琶湖に戻したり、成魚を小学校に

寄贈する活動をつづけています。最近では、ビワコオオナマスを自分たちの手で増やそうと、松岡さんを支援してくれる仲間も徐々に増え、地道な活動の輪が少しずつ広がっています。

太古より湖に生きる固有種であり、琵琶湖の自然を象徴するビワコオオナマスは、もしかすると、そのかけがえのない生命を、いま、私たちに向けて大きな警鐘を鳴らそうとしているのかもしれない。

